

土工哀史——「土工・玉吉」の感想とその後のタコ部屋——……… 駒金哉 ③

とせいどんこんばんい渡世伝言板 みる／うつ／くう……… ⑩

読者之声いどくしゃのこえ……… ⑭

本誌読者のつとといへ七月一八日(案内状)……… ⑨

②①

ニュース醒虎伝(ニュース寸評、にかわって)……… ⑭

⑨

裏表紙の裏

編集後記——というより今月号がうすっぺらなことの言いわけデス………



※ 表紙題字のバックの「腰をたてる……」(原物は各行末に「な」がつく!!)というの
は笠の中に「町を明るくする会」(俺達とは無関係)がはった物を写真で約2/4に縮少
※※ ウラ表紙の田端義夫のうたについて——「作詞作曲不詳」としたが、その後の調べ
で作詞矢野亮、作曲利根一郎、題名は「雨の屋台」とわかったのでここに書いておく。

本誌では先月号に「労務者の歴史 明治・土方編」をのせた。そこでは、現
在も生き続けているタコ部屋が、囚人たちの強制労働として時の明治天ちゃん
政府によつてはじめられたことが明らかになされた。引続いてオしたち土方の歴
史を考へていきたいが、その場合に朝鮮人問題にふれずにはおれない。人夫出
しのかかりを止める彼らは、いつ、どのようしてのしまがったのか、という
ことだ。昭和三年頃から悪名・悪名をはせた柳川組の二代目親分・谷川康太
郎は「わたしは誰の一言いぢがいないがメン食うため力のかぎり生きてきた。
歴史が生んだのだ。トクをそれで正当化しようと思わぬが」という。やはり人夫
出しが出現し肥えぶとりだしたのは、ヤンキーと敗戦してからである。オした
ちが「奴らにばいばいハネされなきやもう少しキムチが食えるし、食いたいのだ。

土工哀史

——『土工・玉吉』(太平出版社)の感想と
その後のタコ部屋——

(東京拘置所在監)

駒金哉

「土工・玉吉」十六日宅下します。私の感
想を少し述べて見ます。タコ部屋の発祥の地は
北海道である事は少し関心のある人なら知ッ

ている事、詳細には何時からとは良く知らな
い。はっきりしてきたのは明治あたりからと
思ッ。